



竜居区調査日誌6

「ふうあっ……！　れ、冷静沈着う……！」

規格外に成り果てた体は歩くだけでも擦れ合う。
性感帯が広がり過ぎて制御不能な状態だ。

しかもＴシャツ一枚に無理矢理詰め込んでいるなら尚更。
これ以上勃起するとペニスの先端が地面に擦れそのまま半勃起は確実。
バカみたいに肥大してしまったペニスでは半勃起ですら披露したくはない。
桜花は膨張を抑え込みながら必死に目的地へと向かう。

彼女は上竜階級向けの衣服を入手できたら即行で竜居区を出る予定だ。



「まあ♪ なんて素敵で凶暴なオチンポかしらあ。
見ているだけでもおピンビンにいい。はあふう。
けれど見かけない上竜の方ですわね。
他の区域からの移住の方でしょうか。」

「やんっ♪ 私も一瞬で太っとうくう……!!
見てるだけで欲情が止まらないわね♪
本音としてはこれからの発散に一緒に
して欲しいけれど、初対面でのお誘いを
するには格が違い過ぎて失礼になるか
しら。私たちではザコチン過ぎるわ。」

平均勃起
183cm
最大勃起
225cm

平均勃起
202cm
最大勃起
257cm



通りすがりから桜花へと送られる熱烈な視線。
ペニスの凄さで人を評価するという、桜花が嫌う判断基準での濃厚な欲情視姦。
それでも体はびくびくと反応してしまう。

「こんな膨れ上がったみつともない体が求められるなんてえ。
んんっっ。今は余計なことは考えちゃダメ！ 冷静冷静っっっ！」

桜花は目まぐるしい事態に深く落ち込んでいる余裕がないだけで自身の変貌に
大きなショックを受けていた。正直化物じみた体。忌避される恐怖も満載だった。
だが、竜居区住人は歓喜の表情で受け入れてくれる。求めてくれる。
安心と嬉しさが桜花の中にある竜居区への嫌悪を自然と薄めていく。



（うわぁ。ヤバっっ♪
何あのチンポ、ヤバ過ぎいっっ！
うわわ。勝手にボキるうっっ！）

（ちよっ…!!

仕事中になんてチンポを
魅せつけるのよお！
ああっ。もおっ！
勃起ペナルティっっ！）

（こんな所であれほどのオチンポ様に
出会えるなんて…♪ あああっ。
タマタマが悦んでいますっっ…!!）





平均勃起
243cm

最大勃起
305cm

桜花とすれ違うギガフタたちは彼女を一目見て瞬時に勃起していく。
軒並み自身の身長を超えるギガチンポ。
桜花が出合った4人が特別ではなく住人全員が常識外れの超巨根。



平均勃起
177cm

最大勃起
203cm



平均勃起
237cm

最大勃起
322cm

桜花は改めて竜居区という驚異を確認する。

（…その驚異に驚異と思われるとか、何の冗談なのよ…！
これ以上悪化する前に早く出ていかないと…！）

もう成長しないだろうと油断して至ってしまった現状。

ここにいる限りまた巨大化するかもしれない。

桜花がとりあえず竜居区を出たいと思うのは当然だった。

周りからの絡みつくようなねっとりとした視線に犯され続け、桜花。ペニスはさらに勃起してしまっている。すでに自身の身長は軽く超えている。

桜花は歩きながら自覚する。

それほどの大きさになっているのにまだ半勃起にすら達していない、と。



(…いい、いくらなんでもこれはデカ過ぎいっ…!)

さらに勃起が進まないようにひたすらに耐え、抑える。
今の自分がどれほどまでに巨大に勃起できるのか知りたくもない。
もちろん知られたくもない。

自身がドン引くほど、竜居区住人が魅惑され畏怖するほどの超絶巨根。

ふと思う。

そんな体で元の居場所へ戻ってどうなるのか。化物扱いに、一人巨大過ぎて生活も発散もままならない、という事態に陥るだけではないか。
だが、少なくとも竜居区では一応の生活はでき、この体は求められ、発散するのも相手となる上竜がいる。

(…うん。とりあえず即時脱出は中止！)

まずは服を手に入れて、どこか独りで発散して落ち着いてから今後の行動をしっかりとじっくり考えよう！)

桜花の意思に応えるように目的地の建物が見えてくる。



「いらっしやいませ〜♪」

あつ。見るからな超ウルトラドデカチンポ♪
もしかして「予約の不動桜花様ですか？」

そこは紹介された規格外サイズ専門の衣服店。
目的地に着き気が緩んだ桜花の瞳を魅惑的に激しく
揺れ動く超大な何かが占領する。

ぶ

る

ん

試着室05

桜花は店員の眼前にある何かがおっぱいであることにすぐに気づけなかった。それほどまでに非常識な大きさ。

（あれおっぱい？ おっぱいなのお？

な、な、な、なんて大きさ……！ しゅ、しゅ「おいしい！
あれならこの成り果てチンポでも……！）

認識した途端、店員の超乳爆尻姿が本能に炸裂する。
もう勃起する下準備は視姦で充分にできていた。

店内に一瞬にして巨大な肉の塔が出現する。



桜花は急激な勃起に引っ張られ前のめりに倒れ込む。
当然桜花の超巨大に勃起したペニスも倒れ込む。

「あああんっ♪」

あまりの超巨根。
そこに充分に超乳な桜花おっぱいが加重し
店員の圧倒的超乳が無様に潰れていく。



「不動様ほどのギガチンを前に私の自慢のおっぱいも形無しですう！
あああああんっ！ デカ過ぎて弾き返せませんっ！」

「じ、じめなあ……えっ……ぢよっ……？
こ、こ、こ、これ……ホントに私のオチンチン……？」

巨大さを自覚して覚悟もしていたが実際に
勃起した状態を目の当たりにすると信じ難い。
翠の所で寝起きで見たときより数段巨大だ。



「ああああっ！ 不動様あつ！申しわけありませんっ♪
これはさすがに出ちゃいますぅ〜っ！
ああああっ！ ミルク出るぅ〜♪」

桜花の長く太く重いギガチンに押し切られて店員は
勢いよく噴乳する。爆噴射は超乳を振動し波打たせ、
密着している桜花ペニスを巧みに激しく擦り上げる。

「ひゃひっ…！」

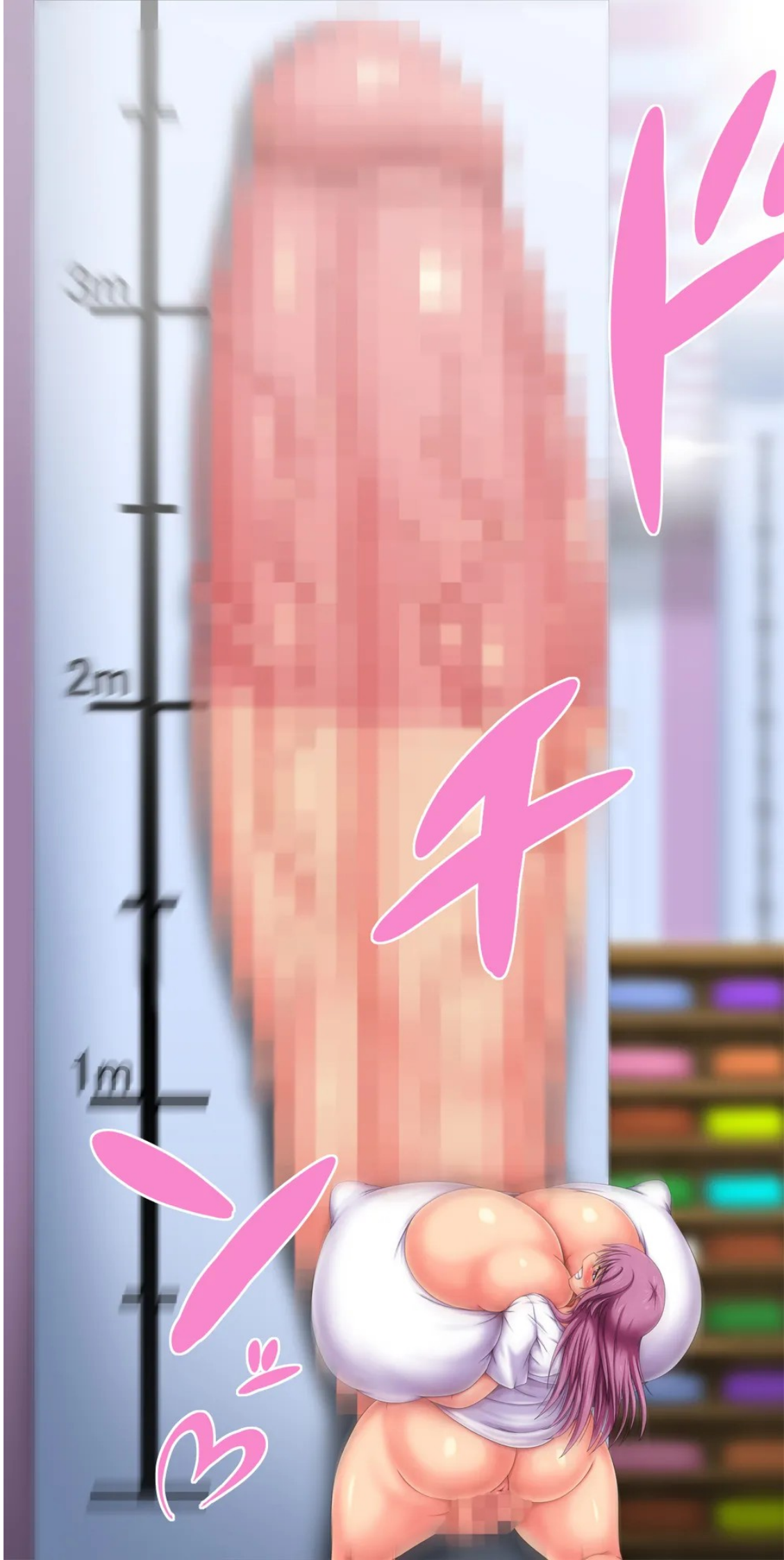
思わぬ刺激に射精寸前まで昇らされ
桜花は慌ててペニスを振り上げる。



持ち上がったのはいいものの不安定の極み。
不慣れと巨大さでひっくり返らないようにするだけで精一杯。



桜花はあっちこっちとフラつき自力ではもう限界と、思い切って
柱のある方へとペニスを押し倒す。



桜花の体は引きずられるように前に出る。
ペニスは柱で跳ね返り桜花の後方へと傾くが、桜花がおっぱいと柱で挟み込んで
どうにか垂直状態に持ち込む。

柱がペニスを補助する態勢で安定すると桜花は一息つく。
そして、そのまま息を吞む。

柱には簡易目盛が書かれており、亀頭が3m後半にまで到達しているのが
見えたからだ。測定によっても証明される桜花の巨根度合い。

(ちよっ……ちよっと待って！ ちよっと待ってえ1m！)

3m

2m

1m



(…、この時点でここまでになるなんて…!!
だって、ま、まだ…これ…勃起しきってない…!!
充分に硬く大きくなってるけど、いつも程のはち切れ感がないもの。
このチンポは確実にまだ勃起する…!!)

大き過ぎるがゆえに勃起しきるのに多くの刺激と時間が必要となるギガワタ。
性交中にどんどん巨根化するのは当たり前。過度な刺激と興奮で限界と
思っていた状態から更に勃起すること多い。

勃起不十分。それは桜花の中で初めての感覚。

超巨根になり過ぎたせいで、今までの平均勃起ではち切れ感に相当する勃起
状態に一度で到達できなくなっている。

3m

2m

1m



桜花が戸惑っている超乳店員とは別の声が聞こえてくる。
反射的に桜花の視線はそちらへ向く。



「申しわけありません。不動様。

うちの店員がミルクをぶちまけるなんて粗相を。

私は「アトラスマイア」の店長、「霧生 伊緒奈」です。
どうぞお見知りおきを。

少々タマが邪魔になるかもしれませんがお許し下さいね。
これでも最小状態なんです。

ふふっ。 ちょっと自慢になってしまいましたね♪」

一目見た瞬間、桜花のペニスがビクビクと脈打ち反応する。
超乳店員同様、一目で欲情を掻き立てられる。

だが、あれはやばい。 見るからにヤバイ。
どれほど反応し興奮しても相手にはいけない。

底なしの増強効果精液タンク。
桜花にとっては天敵もいいところ。

「それにしても惚れ惚れするオチンチンです♪
油断するとこちらも勃起してしまいそうですね。」

不動様の方も発散しないと鎮まらない様子。
ですからせっかくですので測定をいたしましょう♪」

「萎えてる状態と勃起状態ではサイズがまるで違いますから
あらかじめ測定しておくとして服が選びやすいんですよ。」

よろしければ私が試着室にて不動様を最大級までご奉仕
いたします♪ いかがですか？
ちなみに私のタマズリは一級品ですよ。」

視姦で溜め込み、魅惑超乳と蠱惑巨玉で跳ね上がった桜花の
中の射精衝動。そこへ誘惑の追撃。一気に射精衝動が限界に
近づき、桜花はごくりと咽喉を鳴らす。

だが肥大の不安を思い出し、伊緒奈の誘惑を必死に断ち切る。
強引に抑え込んでも衝動は健在で現在進行で増加中である。
じりじりと衝動が不安を削っていく…。



「店長〜!」

測定は私がやります! やらせてくださいいつ!

こんなときこそギガフタ対応ボディ女子「オンナノホ」の出番です!」

桜花にアピールするように超乳店員は説明する。

「ギガフタのみであるはずの竜居区で唯一居住を許された女性体。それが「オンナノホ」。

ギガフタでも壊れない生オナホとっていただければ本望です♪
もちろん上竜クラスのオチンポもハメちゃいますよお。
(壮絶な極太だと無理ですけどね!)





超乳でペニスが隠れているだけかと思ったが、チンプレスしてしまったときもペニスは見えなかったことを桜花は思い出す。

（ええつと、フタナリじゃないなら問題ない？
い、いける？ これいけちゃう？）

とにかく射精しないとこれ萎みそうにないし！
このまま人目につく所で勃起させておくよりはマシだし！
ここで発散しとかなないとまたやらかすかもだし！

自身への言い訳を完了し桜花は超乳店員を選ぶ。

「ふっふっふう♪ 不動様直々のご指名ですから文句ありませんよね。
店長？ それではご案内しますね。 不動様あーる♪
あつと。 よろしければ亀頭をお持ちしますよろしく。」

店員に補助され桜花たちは試着室へと入っていく。



桜花にフラれて少し残念そうな伊緒奈は二人を見送ったあと後ろめたい期待を込めてつぶやく。

「：翠からの話が本当ならあの不動桜花って子は現在進行で進化する正に未知数の塊。

油断していると「極太若菜」のときみたいになるかもしれないから気にしておかないとね。茜音ちゃんってば快感優先ですぐに調子に乗るから。

ふふっ♪

茜音ちゃんだけで手に負えないとなったら私の出番ね。

仕事を完遂できないのはいけないもの。

ふふふっ♪ 想像だけでタマらなくなっちゃうっ♪」

興奮を抑えきれない伊緒奈の巨玉が膨らんでいく。

仕事中なので勃起は抑え込んでいるが彼女の場合、精液だけはどうにもならない。それほどの生産力。

スマホで補助装置の設定を調整し重く巨大となったタマを引きずり、伊緒奈は持ち場へと戻っていった。



茜音と桜花は試着室に入ると衣服を防水ボックスに入れる。

「さらにご案内で〜す♪」

「ここからはパイズリ運送です♪」

試着室はかなり奥まで広がっている。

茜音は台車におっぱいを乗せその上から桜花ペニスを押し沈め、ペニス上部にせり出たおっぱいをペニスへと押し潰す。圧倒的超乳だから可能な横のパイズリ態勢。大質量の乳肉で完全にホールドしている。

茜音は横歩きで桜花を奥へと連れていく。

「オーライ♪ オーパイ♪」

「待つ……！ ああああああつ！

い、今亀頭をそんな風にされるとお……！
出ちゃうからあああつ！」



「試着室内は射精自由ですから
伊っちゃっていいですよ♪

とかかむしろイかすので♪
えいっ♪えいっ♪ えいっ♪えいっ♪」

茜音は2歩進んで一歩下がる横歩きでおっぱいを波打たせ
さらにホールドが外れないよう強く挟み込む。

「あひよおおおおっ!」

「もぉ我慢がああああ...」

「ここまで頑張ったし。この子
相手なら伊ってもいいよね!
とかか、もお出っ...」





「ま、まだ出りゅううっ…！」

あああああああほおっ！

あひゃあああああああつ！

？ ちよっ…！ なにこれえっ！

いくらなでも出過ぎいひい！

おほおおおおっんひいっ！

何でこんなにいいいいっっ！」

③、これえダメエツツ…！

大量射精気持ちいいっ…！

どんだん精液が昇ってきて気持ちいいのが
全然途切れないっ…！

おっぱいもさつきからどくどく脈打って
いっつもと違って何か変っ！

私の体いったいどうなっあああああつ！

ま、まひゃ射精中なのにチンポがイこう
としてるうううっ！

ぢよっ…ダメエ！ 止まってえ！
色々止まってえええええっ！



「これはまさかの重複射精じゃないですかあ♪
射精中に射精して爆射化し続けるタマツキの十八番。
通常ふたなりなはずの不動様がこれほどの射精量を
有するなんて・・・」

これは「タマチチ」確定ですね♪
不動様ったらハイスペック過ぎですよお♪」



「タマチチ」とは通常フタナリにて出現する特異体質。
様々な要因で腹部内にあるはずの精巣が乳房へと進出している状態のこと。

今までの判明しているのは2パターン。

通常フタナリとタマツキフタナリを両親に持つ
通常フタナリは大サイズの主精巣と小サイズの
副精巣(1つ以上)を持つ。

これはタマツキが一つの巨大精巣を持つのでは
なく複数の精巣で成り立っているために起こる。

稀に副精巣がペニスの成長とともに大きく肥大
する場合があります、収まりきれなくなったそれが
乳房の下部へと進出してくることがある。
その際、精巣保護のためか乳房も大きくなる。

このパターンは副精巣持ちが前提で
肥大精巣によって超乳化する、という
流れ。もう一つのパターンは超巨根で
超乳であるがゆえに起こる。

例・水瀬 月夜(●才) ▶

例・水瀬 月夜(1●才) ▲

基本、巨根化するほど精巣も大きくなるが腹部内では限界がある。だが、超乳と巨大精巣。巨大ゆえに交わるはずのない領域を越え、巨大精巣が乳房内へと徐々に進出し、超乳肉というある程度自由のある場を得て、制限を解かれたそれは一気に肥大する。

「あふうほおおおおおつ！
あああああつ！
な、なんでこんなに出るのおつ？
止まっあああああつほおおお！」

（じゃ、射精の気持ちいいのがずっと続けろ……！
ら、らめえつ！ チンポどんどん気持ちよくなりゆっ！
このままだと来ちゃうつ！ また勃起来ちゃうつ！
もおアホみたいに大きいくせにまだ大きくなりゆのおつ！）

対の2つで重複射精を可能とするほど強大となった精巣。それに比例するペニスはいったいどれ程になってしまったのか。翠との性交がなくても桜花はまだ成長していた。翠からのペニスへの精液注入がそれに拍車をかけた。

ついに迫る一度目の多段勃起。

巨大に成長し過ぎたため、以前までの平均勃起時の充血感・勃起感に到達することすら一度ではかなわない。

この多段勃起でようやく普通。巨大過ぎるため刺激と興奮が多大に必要なだけで桜花ペニスからすればようやく平常運転。

(ホ、ホント射精止まなあつ……！)

チンポ気持ちいい！チンポ漲りゆつ……！

ああつ！来る来る来る来る来りゅう……！

大きくなりゆ！大きくなつちやうつ！

チンポビキビキに勃起しゆるう……！)





ペニスが硬くなって持ち上がり一気に伸びる。太さはそれほど変化はなかったが、射精中の精液が出そびれるほどに一気に長くなる。

5m半に迫る長大な極太ペニス。

翠への尿道ファック終盤で見せた超勃起状態を軽々と超えている。

「平常」で以前の「超勃起」をだ。

言い方を換えれば、この大ききでまだ超勃起という次の段階が残っている。以前とは比較にならないほどの刺激と興奮が必要となるが、まだ巨大に勃起できる。

成長に意識が追いつかない桜花があれこれと推察できるはずもない。これが、「ここが、限界の超勃起。この大ききでさらに先がある」とは夢にも思わない。

対照的に上竜経験豊富な茜音は確信している。少なくともこの超ドデカチンポはもう一段階は巨大化すると。



持ち上がったのは一瞬。
桜花。ペニスはまた地に落ちる。

この巨柱を余裕で支えられる強靱太下半身も技量も
持ち合わせていない桜花なら必然。

だが、倒れきることはない。
ペニスによって倒れたが、ペニスによって支えられている。
桜花自身はタマチチが何か理解していないため、無造
作に押さえたおっぱいと地に落ちた衝撃でまた爆射
が始まる。



「ああああああっ！

いっぱい出したのにまだ出るうっ！

私の精巢、おかしくなってるよおっ！

もおチンポビンビンだからあこれ以上気持ちよく

ならなくて大丈夫なのにいんどんどん出りゆうっ！

あああああああっ！

ごめんなさあひいっ！ 止まんなあっあああ！

あああひいっ！ あひよほおおおっ！」

測定に充分なほど勃起したと思い込んでいる桜花は止まらない射精を恥じる。まだまだ発散しておきたい気持ちもあるがいつまでも大量に出続ける精液の存在への恐怖がそれを上回る。だが、止めたいのに止まらない。

そして、茜音はさらさら止めさせる気はない。



「ちよっ……もおんびいひいひいっ！
あひやああああああああっっ！」

茜音は素早く流れる動きで桜花。ペニスに馬乗り、両手で鈴口を引つ張り上げ両足パイズリで亀頭裏を責める。

その攻撃力に桜花は悶える。

「ここから私の腕とおっぱいの見せ所♪
必ずバッキバキにしてみせますよお！」

せっかくの重複射精するほどのタマチチですから、まずは不動様史上最大爆射まで「案内です♪」

「あはあっ♪早速チンポがイキそうですよ？
ほらあ遠慮せずにいつてくださあ〜っ！
何度でもイかせちゃいますからあ遠慮無用の
限界無用ですよお。ほお♡らあ♡イ♡けえっ♡」

「だ、ダメえっ！まひやイグウツウツッ！
おほおほおほおほおつっ出りゅうっっ！」

ビクッ
ビクッ
ビクッ

「あああああああああつ！
もおイ、いったかりやあつ緩めへええっ！
もおいつでりゆかりやあつ止めへえっ！
亀頭コスシユらめなのおほおつ！
もお充分でしゅよねえへええっ！」

「何をおっしゃる不動様♪
噴射口もまだ余裕なくらいですよ？
不動様ならまだまだ爆射可能です！」

「ほらほらほらほらあつ！
それぞれそれぞれえっ！

とっとうっちやえっっ♡」



「おほおおおおおおおおおおおおおおおおつ！
なにこれええつ！出まぐりゆうつ！」

（ま、まぐれじゃなくて私普通に重複射精
しちゃってるう。急成長で精液生産もイカ
れちゃってるの確定だよおつ！
バカデカイチンポなのに管満杯に精液が
どんどん流れていって噴き出まぐりゆうつ！

ぎもぢいいのが止まらにやいいいっつ！
も、もっとゆっぐり発散させへえつ！
このままだといき過ぎて死んじゃうからあ
あああああああああつ！）



「……っ！ あっ…… あひよおっ！
おほおおおおおおおおおおおおおっ！」

桜花は凶悪な快感に耐えきれず気絶するが
数秒でその快感に意識を引き戻される。
勢いよく射精し続けているせいで気絶し萎え
てそのままダウンも許されない。

「あひいほおおおおおほおおおっ！
せ、精えぎい止まつでえええええっ！
あああああっ！ ひいほおっ！
ぢよっ……らめらめらめえっ！
デンポがまひやイギいいいいいっ！
あひやほおおおおおおおっ！」

「あああああんっ！ おっぱい震えるうっ
不動様の爆射振動でおっぱい刺激されてえ
私も乳首がどんだん勃起しますうっ！」



茜音は脚でおっぱいを変形、操作して乳首を掴める態勢に持っていく。一段と勃起した乳首越しに亀頭を擦れる状態だ。

鈴口から手を離しても大量に出続ける精液がもう狭まることを許さない。

「ああああああんっ！
パイズリを強化しつつ次の準備に入りまあゝゝす♪」

巨大に勃起した乳首を擦りつけられ、増加する刺激に桜花ペニスはまた達し脈打ちまわる。

試着室の奥の方は途中で床が斜めになって突当たりには鉄格子。変わらぬ勢いで出続けている精液は部屋に溢れることはなくどんどん排出されている。



茜音は両手と亀頭で乳首を擦り潰すように激しく扱く。
乳首はほんの少しずつ大きくなっていく。けれど、この程度
は誤差のようなもの。フタナリの多段勃起同様、刺激と興
奮が一定値を越えると一気に大幅に巨大化する。

茜音の乳首の超勃起。
それが次の段階への必須準備。

「ああああああああんっっ！
私もどんどん変形していきますよお♪」

興奮で降りてきた子宮がその大きき故に股からはみ出していく。
上竜クラスを喰えこめるほどの大容量で強靱で拡張されきった
それは外へ解放されることに大きく広がっていく。

これが竜居区をイキ又ける女体。
上竜同様、本性を現した姿は見るからに非常識。



そう、非常識。自然には到達できない領域。

桜花は早く気づくべきだった。

自身がペニスだけでなく副作用で胸も大きくなっていた時点で。

オンナノホは増強剤の副作用を利用して誕生させた女性。その体液はフタナリ以上の増強効果を有する。

『あああああああつ！』

不動様あああああつ！

もお少しお待ちくださあい！

あああああああんつ！

超勃起乳首での2穴責めで

ビキビキにしますからあつ♪』

茜音は凄まじい速度で乳首を扱きあげる。

百戦錬磨の茜音は桜花なら悶絶する刺激も平然と受け入れ悦に浸れる。

そして、当然の結果で亀頭をついでに責め立てられた桜花は何度も達する。勢いと量は微増した程度だが射精の持続時間がどんどん引き伸ばされていく。

「おおおおほおおおおおつ！

止まにゃあああああああつ！

これ以上はあつ…じぬうつおおおおおつ！

ひやへえいひひぎいへえ干からびりゆうのおほお

おおおおおほおおおつ！」

桜花の経験値からしてすでに脱落して当然の性交。だが、驚異的に進化したペニスと精巣が本体を無視して対応し続ける。桜花が何度限界を迎えて気絶しても爆射のせいでまるで萎えず、爆射が長引いていくせいで何度も快感悶絶地獄へと引き戻される。

管満タンの爆射が止まらない限り終わらない。

翠との性交後の成長でタマチチ化し、射精性能が爆上がり。酷使されることで経験値を溜め現在進行で成長する精液生産力はいまだ底が見えない。



茜音の猛烈な手扱きは数分間続く。
もちろん同じ時間を桜花は射精し続けている。

「ああああああんっっ！
ち、乳首がイクッ…！イクッ！
乳首滅茶苦茶にイククウッ！
あああああああああつ！
来る来る来るううっ…！」

手扱きが最高速に達し、乳首は一気に昇りつめる。

「イッグウウウー……ッッ！
ああああひいあああああつ！」





茜音の腕を跳ね飛ばす勢いで勃起した乳首。その超乳を持つてしても不釣り合いまで大きい。茜音自慢の2本の巨砲である。

これも増強剤の影響で、オシナノホごちに様々な特性を持っている。

「はあはあ……！ 準備完了♪

お待たせしましたあ。不動様あ♪

やつぱりこれほどのオチンポ、ノンスト爆射
だけじゃ不足ですよね〜。

すぐさま二穴責めも追加しまあ〜す。」

茜音は桜花。ペニスから降りると2本の巨砲を携えて桜花本体の後ろに回る。

桜花は気絶からの覚醒を繰り返す度に意識を保てる時間が増えているが射精にほぼ全意識を持っていかれているので茜音の動きに気づけていなかった。



「ひぎいほおおお」おおっおおっ？
ぢよっ……にやにいおおほおおおっ！」

ビクッ

セブン

極太に勃起したペニスのせいで強制開脚状態だった桜花に茜音が巨大乳首を挿入するのは簡単だった。増強効果精液でペニスとおっぱいだけではなく各穴のエロ性能もしっかりと強化されているので尚更。

「んんんっ！ ああああんっ！」

余裕で入った割にかなり締まりますう！
これは早速噴き出ちゃいますよお……っ！」

「ぢよっ…待つあああああああつっ！
ひいほおっ！」「れえ以上はっあああああつ！
もお臨界いらってええええほおおおおおつ！
ぼ、母乳中出ひい止めえほおへえひいっ！」

射精し続けているせいで膣が締め、桜花が貪欲に
搾り取るかのように茜音は噴乳させられる。
母乳は桜花の子宮に順次炸裂していく。

「ひゃああああああああんっ♪
もう不動様になったらがつつき過ぎですよ。

本命は尻穴の方ですからあ。
やる気だすならこつちをハメ込んでから
お願いしますねえ。あああんっ！」



「そんなあつ丸ひや乳首いお尻ににやんてえ
無理いだかりやあああああああつ！
おおおつ！ あぎいっ！ ひぎいっ！ つっ！」

刺激の過多で桜花の意識が一瞬飛ぶ。
そして、刺激の過多で意識を引き戻されるころには
行為は進行してしまっている。
桜花は痙攣と喘ぐ以外はまともに行動できていない。

「アナルの開発はあまり進んでなさそうですが
問題はまるでないですね♪
ほらあ手でこし開ければこんなにぐっぽり♪
脇に挟んだ乳首をすべり込ませてっ。
んんんっ！」

「あひいほおおおおおおおおおっ！
おぼおほおおおおおおおっ！」

二穴からの母乳中出しで桜花の腹がどんどん膨らんでいく。ノシストツプ爆射、二穴責め、母乳中出し。桜花には処理できる刺激量ではなく、ついに脳がオーバーヒートする。まともに思考もできないまままだ痙攣し喘ぎ叫ぶ。ここまできてもペニスはまだまだ萎えない……！



茜音は桜花を抱きかかえるようにして
自身のおっぱいに乗せる。すると両乳首
は自然に桜花の中へと深く入り込む。

「おおおおおおおっ！」

あひいほおおおおおっ！」

ほおおおおおおおっ！」

「そこまで感じてくださって感無量です。
でもまだ不足やもですからやれること
はやっておきますよお♪

「この辺りかなあゝ。
おっ。奥にコリコリした感触が♪」

「あひいほおおひいほおおおおおおおっ！
あひゃひいほおおおおおおおおおっ！」

桜花のペニスが少し膨らみ、射精の勢いが
増していく。タマチチ急所責めで精液生産
が活発になり過ぎて、精液が管容量を無視
し始めている。

「これはやりましたよ！
ついでに噴乳もゲットです♪
さあ、不動様っ！昇りつくしてくださいっ！」

茜音最大火力で桜花を超勃起までぶっ飛ばす。
凶悪なまでの快感で桜花は気絶と覚醒の繰り返し。
覚醒時も激烈快感オーバーヒートで獣のように喘ぐ
しかできず、噴乳力開花に衝撃を受ける余裕もない。

「あああああひいあああつ！
ひいほおおおこおおつ！」

生産が加速していく精液が二スの裏を盛り上げ強引に出ていく。早く本気の管に成れと言わんばかりに流れ込んでいく。

「おほおほおおひいほおつ！
おほおこおおおおつ！」

「ああああんっ！んんんっ！
不動様に母乳どんどん搾られますう！」

射精の影響で二穴が締め、桜花の中に母乳がどんどん溜まっていく。桜花には想定外の増強効果母乳がたんまりと。

「あひいほおおおおつ！
いひいひいひいほおつ！」

副作用で増強された女体性能が真価を発揮する。桜花の中出し容量は大幅に上がっており、母乳の搾り溜めに限界が来ない。お腹は面白いほどに膨らんでいく。

ポッ
フッ



「あああああんっ♪
おっぱいでイックウウウッ……!」

桜花の締め付けで茜音が絶頂する。
桜花の腹の膨張が加速していく。

「あぐうほおおお」おおおおおっ!
あぎいひいほあああああああああっ!」

ペニスの裏が一段と盛り上がる。

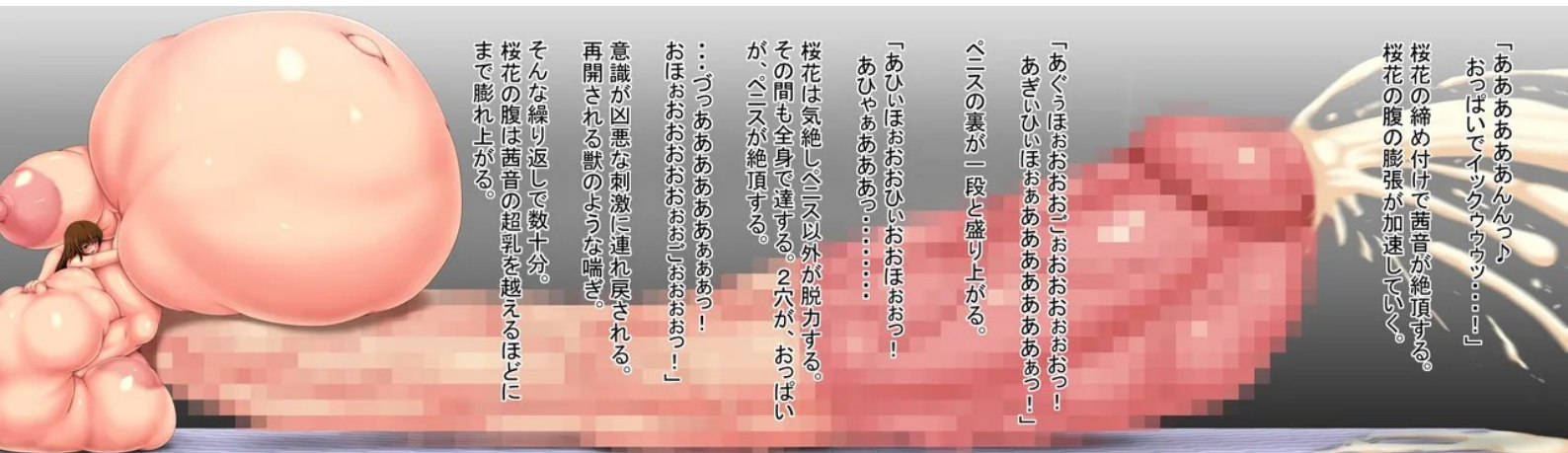
「あひいほおおひいおほおっ!
あひやあああっ………」

桜花は気絶しペニス以外が脱力する。
その間も全身で達する。2穴が、おっぱい
が、ペニスが絶頂する。

……っあああああああああっ!
おほおおおおおおお」おおおっ!」

意識が凶悪な刺激に連れ戻される。
再開される獣のような喘ぎ。

そんな繰り返しで数十分。
桜花の腹は茜音の超乳を越えるほどに
まで膨れ上がる。



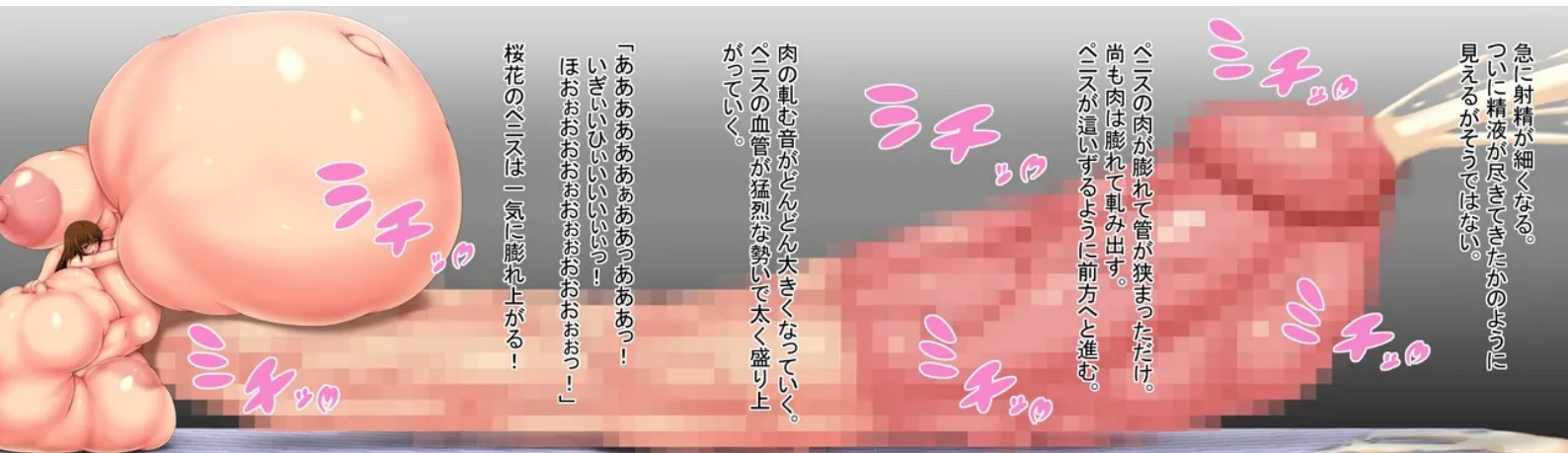
急に射精が細くなる。
ついに精液が尽きてきたかのように見えるがそうではない。

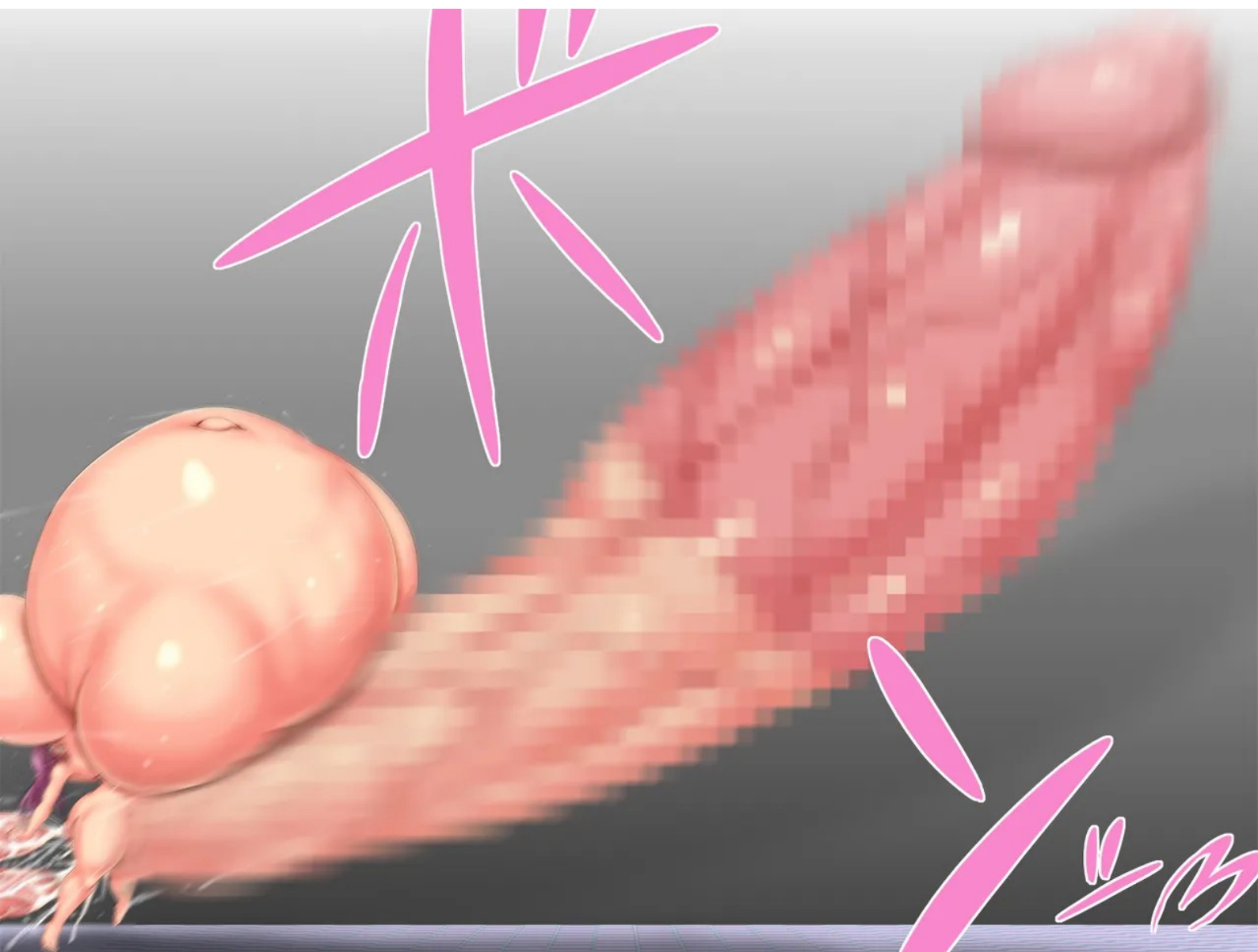
ペニスの肉が膨れて管が狭まっただけ。
尚も肉は膨れて軋み出す。
ペニスが這いするように前方へと進む。

肉の軋む音がどんどん大きくなっていく。
ペニスの血管が猛烈な勢いで太く盛り上がっていく。

「ああああああああっああああっ！
いきいきひひひひひっ！
ほおおおおおおおおおおおっ！」

桜花のペニスは一気に膨れ上がる！





まるで爆発するような勃起。

飛び出るように長くなったせいで桜花本体が前へと飛ぶ。猛烈に硬く太くなったせいで巨大ポテ腹ごと跳ね上がる。長く硬く太くなり過ぎたせいで爆射ですら一瞬止まる。

長さ8m57cm、太さ196cmの圧倒的超巨根！

さらにはこの大きさと跳ね上がる勃起力と硬さ、タマチ子による射精力で「性」能も申し分なし。

尻穴と子宮をめくられながら桜花は二穴責めから解放され、二穴からは母乳が激しく逆噴射を始める。

目的は達成し、あとは汁を全て外へと吐き出すだけ。

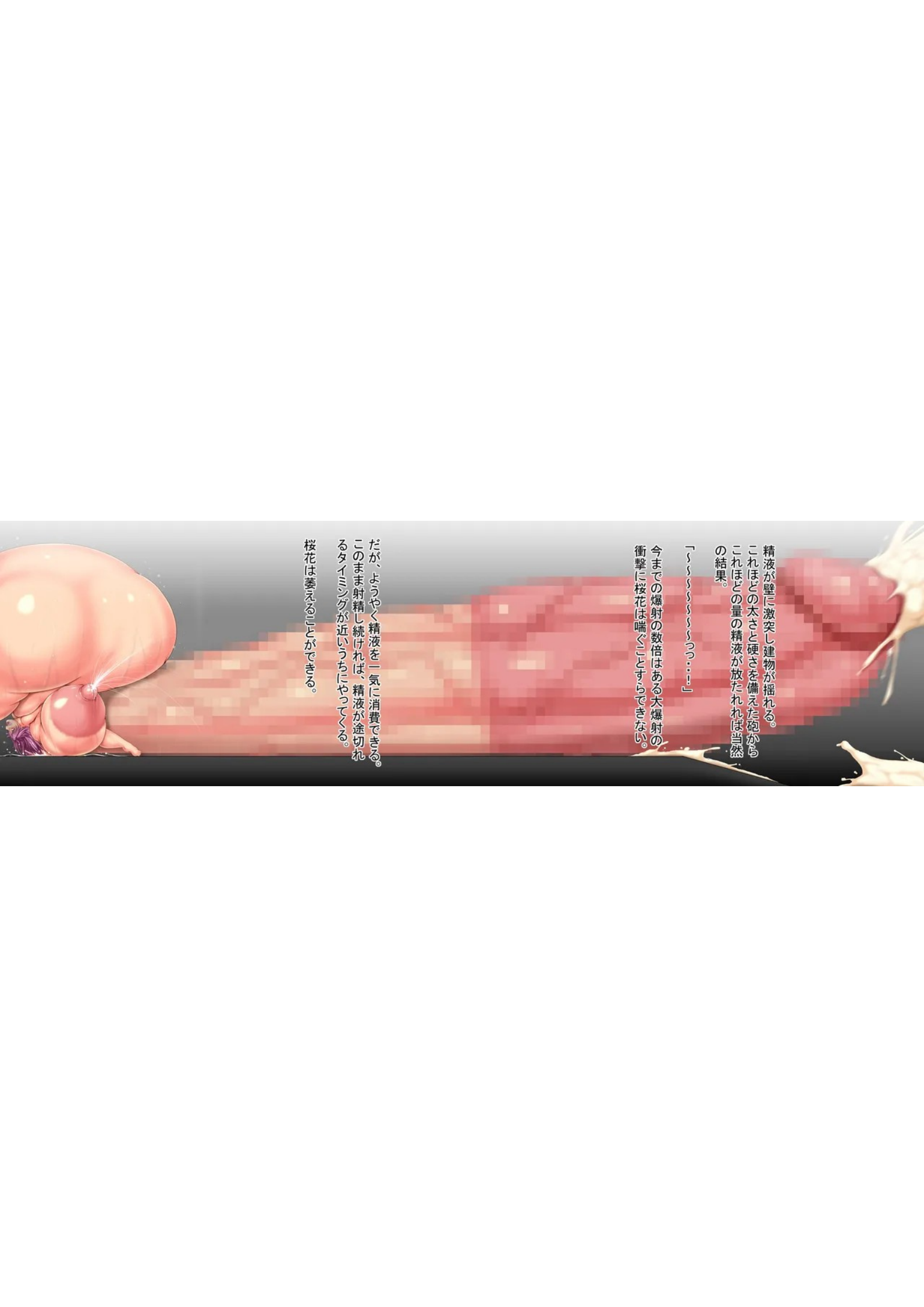


大幅に許容量が上がった管に精液が一気に流れ込んでいく。
その重みでヘニスはまだ地に落ちる。

桜花本体も見事なまでに尻もちをつき、豊満な下半身の肉が寄り二穴を狭める。

そこへホテ腹が圧しかかり、床で穴にフタをするように逆噴射が完全に止まってしまう。





精液が壁に激突し建物が揺れる。
これほどの太さと硬さを備えた砲から
これほどの量の精液が放たれれば当然
の結果。

「~~~~~」

今までの爆射の数倍はある大爆射の
衝撃に桜花は喘ぐことすらできない。

だが、ようやく精液を一気に消費できる。
このまま射精し続ければ、精液が途切れ
るタイミングが近いうちにやつてくる。

桜花は萎えることができる。

近づいていた安息の時間が潰える。

重りのついたロープがペニスを締め上げながら何重にも巻きつき、射精を止めてしまう。

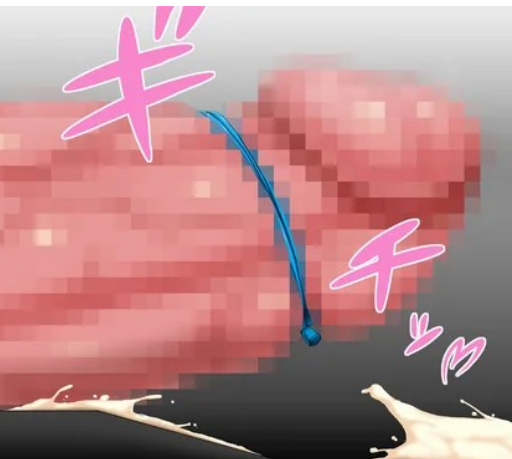
「おおっああああああああっ……！」

桜花は喘ぎ全身を震わすが精液は飛び出せない。

桜花のペニスに巻き付いたのは投擲用の射禁ベルト。投げたのはもちろん茜音。

茜音が堪らずハメたくなるほどのペニスは射精も凄まじいことが多いため、ハメるためにはある程度射精を止めなくてはならない。

扱いが難しいこの射禁ベルトを使いこなしていることから茜音がどれほどの上竜を喰ってきたかが分かる。



興奮で母乳が溢れ出している。

茜音の超乳は内包する母乳で膨れ上がり、長乳首は流れ込む母乳で歪に変形しては爆噴乳で踊るようにのたうつ。

「不動様はお初ですから念には念を♪」

（反応を見る限りこれ以上は勃起はできないでしょうけど。この絶妙な極太をハメないわけにはイかないもんね♪）

以前、茜音は極太過ぎる相手に壊されかけたことがあったが、トラウマになるところかそれ以来限界ギリギリの極太ハメがブームとなっている。





まるで勃起するように飛び出た肥大子宮が
抑圧から解放され大きさを増していく。

捕食準備万端！

「それじゃあダメ押しでいただきまあ〜すう♪」

茜音の見立てでは間違っていない。

現在の桜花にこれ以上の勃起はない。

だが、増強効果ありの栄養満点の母乳が逆流する
ことなく桜花の体内に大量に滞在中である。

決死の第二ラウンドが始まる。





























